



防災避難訓練を大きく変えます

6月25日（金）5・6時間目に防災避難訓練を予定しています。昨年度までは、津波や高潮に備えて校舎4階に避難するようにしていました。しかし、防災の専門家を招いて去年検討したところ、4階に避難したのでは孤立する恐れもあり、山側の高台に避難しなければならないという結論になりました。

そこで、教頭先生が学校周辺の高台で300人余りが避難できる場所を探してくれ、今年度から、寶林寺（ほうりんじ）さんの駐車場へ避難するように変更しました。初めての試みであり、様々な課題が出てくることが予想されますが、今回実施したことをもとに、改善を図っていこうと考えています。

香川県では、特に懸念される災害として南海トラフ地震があります。平均すると88.2年間隔で起こっているそうです。数年前の予測では、最悪の場合、最大震度7、死者3500人、避難者数（1週間）22万人の可能性が有るそうです。この地震の発生確率は、10年以内20%程度、20年以内40-50%程度、30年以内60-70%程度、50年以内90%以上でした。つまり、みなさんが生きている間に、90%以上の確率で1回は起こるということになります。

15,899人が亡くなり、6,157人が負傷、2,529人が現在も行方不明となっている東日本大震災が発生した2011年3月11日午後2時46分、私は東京都心、32階建ビルの10階、教室の半分くらいの大きさの部屋にいました。東京都心の震度は5でした。それでも、座っていたキャスター付きの椅子が部屋の端から端まで動くほどの揺れで、必死に机にしがみついていた。100mを超える巨大なビルが、「ギー、ギシギシ」と不気味な音をたてながらゆっくりと左右に大きく揺れていました。窓から見える近くの高層ビルも左右に揺れていて、お互いにぶつかりそうになっていました。生まれて初めて「死ぬかもしれない」と思った瞬間でした。

さらに驚いたのが、東京中心部のスーパーやコンビニから、数日間、ほとんどの食品や飲み物が消えたことです。地震発生の日々の夜には売り切れ、補充が完全にストップしたのです。翌日、自転車で20軒くらい回ってみましたが、どこも食品と飲み物の棚（たな）には何一つありませんでした。15軒目を越えたあたりで感じた「恐怖」は、今でも忘れることができません。

香川県は比較的自然災害が少ない県だと言われています。しかし、いつ、災害が発生するかは分かりません。明日かもしれません。家庭でも、防災用品の準備、最寄りの避難場所の確認等をしておきましょう。



<令和元年度の避難訓練の様子>

「社会を明るくする運動」弁論大会

6月11日（金）、豊中町農村環境改善センターで、第72回三豊地区中学校「社会を明るくする運動」弁論大会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止となり、今年度は無観客での実施となりました。

詫間中学校からは2年馬場彩佳さんが代表として出場し、「明るい未来のために」という論題で、体が不自由な人に対する差別や偏見をなくすことや、温かい見守りや支援の大切さについて、すばらしい弁論をしてくださいました。

三豊市内7中学校の代表生徒に共通していたのは、社会の一員として「自分にできることは何か」を考え、身近で小さな事から実行していくことの大切さでした。

